

3月6日 マルコによる福音書1章12～15節 今日の説教から  
説教題：「誘惑を受けるイエス様」

今日の聖書箇所において「イエス様が受けた誘惑」は、詳しく書かれておりません。マルコによる福音書は人間としてこの世に遣わされたイエス様に焦点を当てているため、イエス様とサタンの闘いは詳しく記していないようです。今回はマタイ福音書の方を裏面に記しているので、そちらも見ながら読み進めていきたいと思います。

イエス様は、マタイによる福音書1章において三つの誘惑をサタンから受けています。それぞれの誘惑を受けるものの、イエス様はそのどれをもはねのけて、「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある」ときっぱりとサタンの誘惑を断ち切りました。

こういった誘惑について、カトリックにおいては「七つの大罪」としてまとめられています。一つの大罪は「暴食」、カトリックでは必要以上に食べることを罪と考えます。この世界の中で飢えに苦しむ人がいて、それに対して我関せずに食料をむさぼることを罪とします。これに対応する美德は「節制」であり、必要なものを必要なだけ得る生活で満足することが私たちに求められています。

続いて次の大罪は「色欲」、カトリックでは過剰な男女の関係を良しとしておらず、男女の関係に奔放であることは罪であるとされています。これに対応する美德は「純潔」であり、男女ともに倫理的な生活を送ることが求められています。多神教の神々を崇拜することを聖書の中では色欲にたとえることから、偶像崇拜もこの罪と重なるのと言えます。

次の大罪は「強欲」、これはお金や物に対する執着です。信仰ではなく物に執着することは、それを神さまよりも優先することにつながります。これに対応する美德は「慈善・寛容」であるとされています。慈善とは自分がもつ物を惜しみなく施すことで、寛容とは慈愛をもって相手を赦す心です。どちらも惜しみなく相手に愛を注ぐことが求められています。

次に記されているのは「憤怒」、これはその字の通り怒ること自体を罪であると指摘します。怒りの感情をもっても、その対応する美德である「忍耐」によってそれを誰かにぶつけることさえしなければ、私たちは罪を犯すことなくその感情を抑えることが出来ます。

そして、次の大罪は「怠惰」、つまり何もしないという事です。私たちは何もしなくても洗礼さえ受けてしまえば救われるわけではありません。そのような「怠惰な信仰」がゆるされるわけではないのです。私たちがその美德である「勤勉」さを發揮して信仰の道を歩み続けるのであれば、神様はその信仰に報いる恵みを私たちに注いでくれるので。それほどに、神さまは私たちの事を愛してくれているのです。

ただ、その愛を「自分だけに注いでほしい」と思った時、それは「嫉妬」という大きな罪へと変わってしまいます。今あるものに満足せず、他の人の持ち物をも欲し続けることは、私たちから「感謝」の姿勢を奪い、「人徳」すらも失い、やがて誰かを貪ることしか考えられなくなる事でしょう。

そして最後の大罪は「傲慢」です。今私たちの手元にあるものが「当たり前」だと思ってしまうこの罪は、戦争の引き金となることがあります。強欲なことに他国を自分のものにしようとして、怠惰なことに自分の働き以上のものを手に入れようとして、隣国の領土を貪り食う暴食へと至ります。そうではなく、今自分が多くのものを持っていることを「謙虚」に受け止めて、それが「与えられている」ことを意識した時、私たちの心は傲慢の罪から解放されるのです。

誘惑に負けることによって、私たちは多くのものを失うことになります。それは時間であったりお金であったり、あるいは誰かからの信頼や、隣人や家族からの愛情であったり、何より、神様からの期待という大きなものを失ってしまうことになります。しかしそうではなく、私たちは悔い改めることを知っています。

イエス様はサタンの誘惑であっても退けることが出来ました。私たち自身にそれほどに力はないかもしれません、私たちには共に歩んでくれるイエス様の力が備えられているのです。私たちの十字架ではなくイエス様の十字架を背負って、イエス様と同じ速さで、私たちは歩くことが許されているのです。そのことを、私たちは日々の御言葉から教えられているのです。どんな時も私たちの歩みには共にイエス様がいます。その心強さを胸に、今週一週間の、今週一週間の、これから歩みを共に進めていきましょう。

### 今日の説教箇所：マルコによる福音書 1章 12～15 節

- 12: それから、“靈”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獸と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

### マタイによる福音書 1章 1～11 節

- 1:さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“靈”に導かれて荒れ野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』／と書いてある。」次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、／あなたの足が石に打ち当たることのないように、／天使たちは手であなたを支える』／と書いてある。」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われた。更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、／ただ主に仕えよ』／と書いてある。」そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

七つの大罪	七つの美德
暴食	節制
色欲	純潔
強欲	慈善・寛容
憤怒	忍耐
怠惰	勤勉
嫉妬	感謝・人徳
傲慢	謙虚